



慶應義塾大学

論理と感性のグローバル研究センター

2017年度末報告会

日時: 2018年3月1日(木) 14:00~17:50

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 東館6階 G-Lab(参加自由)



プログラムの詳細は次の会合サイトをご覧ください。

<http://abelard.flet.keio.ac.jp/seminar/logic-and-sensibility-2018march/>

14:00 開会の挨拶

生物心理学グループ

伊澤栄一(文学部)

個体間の競合的コミュニケーション; 3者間
交渉は2者間組合せの平均値で予測できるか?

美学・美術史グループ

山根千明(先端研究センター)

ヴァイマル・バウハウスの色彩論 —ルー
トヴィヒ・ヒルシュフェルト=マックの色彩研究
を中心に

行動心理学・社会心理学グループ

森井真広(本研究センター)

多数の画像刺激の評定で生じる回答バイ
アスの分析

16:25-16:35 コーヒーブレイク

認知心理学グループ

伊東裕司(文学部)

人違い現象の心理学の確立を目指して

哲学グループ

源河亨(本センター・日本学術振興会(東京大
学))

悲しい曲は悲しみを喚起するか

倫理学グループ

長門裕介(本研究センター)

変容的経験における意思決定はどれくらい
「実存主義」か?

Decision Theory in Transformative Experience
and the existentialist's concern

遺伝と教育グループ

川本哲也 東京大学(学校教育高度化・効果検
証センター 特任助教)

一般パーソナリティ因子と一般知能との関
連—双生児法による検討

発達科学グループ

榎本拓哉(先端研究センター)

対人相互作用の定量化: ソーシャル・イメー
ジングによる発達支援

15:15-15:25 コーヒーブレイク

民族学考古学グループ

臺浩亮(文学研究科博士課程)

「収集の現場」で働いた論理と感性—20
世紀初頭のメラネシアを生きる小嶺磯吉
の民族造形コレクションから考える—

文化人類学グループ

宮坂敬造(慶應義塾大学名誉教授)、北中淳子
(文学部)

感性を構成する社会・関係論理の作用につ
いての文化医療人類学的研究:

感情を揺さぶる芸術的表現の産出と受容の
事例からの検討

認知神経科学グループ

伊藤友一(先端研究センター・日本学術振興
会特別研究員)

思考の時間的・感情的方向性と個人差

17:50 閉会の挨拶

主催: 慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター

最新情報: <http://abelard.flet.keio.ac.jp/seminar/logic-and-sensibility-2018march/>

お問い合わせ先: 本報告会事務局: e-mail: logic@abelard.flet.keio.ac.jp

Global Research Centre for
Logic and Sensibility